



本校
ホームページ
QRコード

令和7年度全国学力・学習状況調査報告について

2学期の学校生活がスタートし2週間余りが経ち、本日、定期テスト発表となりました。夏休み後、うまく2学期の波に乗ることはできたでしょうか。なかなか学習面で気持ちが入らないな…と感じている人はいないでしょうか。生徒の皆さんが、自身のこれまでの成果や課題をおさえながら、テストに向けての学習につなげていってほしいと思います。

体育祭に向けた取組もスタートしていきます。周りの人と活動するなかで、自身や周りの人の良いところをたくさん発見していきましょう。集団力の高まりに期待します。

さて今回は、4月17日（木）に3年生を対象に実施された〔全国学力・学習状況調査〕の結果から、本校生徒の学力の定着状況や強み・弱みの分析等の内容より、今後の指導の方策等について保護者の皆さまに報告します。本調査で本校生徒の学力のすべてが把握できるものではありませんが、今後の学力向上の取組に活かしていきます。

国語

平均正答率は全国平均正答率を下回る結果となりました。各問題における無解答率は、全国平均値より高い状況にありました。あきらめずに問題に取り組もうとする姿勢を定着させていくことを大切にしていきたいところです。

生徒質問紙から見られる特徴として、『国語の勉強は好き』『国語の授業で、先生は、あなたの良いところや、前よりもできるようになったところはどこかを伝えてくれますか』という設問に対し、肯定的な回答の割合は全国平均値を上回っています。

『文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる』設問での正答率が低いという状況でした。引き続き、文章を読み取り、それに対する自分の考えを書いたり、他の人へ説明したりする取組の継続が必要です。

＜強み＞知識・技能面で既に学習した事項の定着率が高い状況でした。例えば、『言葉の特徴や使い方に関する事項』の正答率が全国平均正答率より高かったです。授業で毎時間のように行っている漢字テストなどの取り組みがプラスにつながっているようです。

＜弱み＞各問題について、自分の考えを文章化する問題の正答率が、全国平均正答率より低い状況でした。考えたことを整理すること、問題の条件に従って文章化することに課題がみられます。

【方策】

- 国語の学習の魅力を伝えるとともに、表現力や読解力の力を伸ばすために、たくさんの文章に触れさせるように工夫していきたい。
- 引き続き、『書くこと』の力を育てていくため、単元毎に条件等を工夫し、文章を書く機会を増やしていきたい。また、国語以外の教科でも「書く」活動を継続的に設定する。
- 学習活動のねらいの確認や振り返り活動を通して、新しい学習課題に意欲的に取り組めるようにする。また、基礎学力の定着を図るとともに、思考力・表現力を身につけられるように授業改善を進める。

平均正答率は全国平均正答率を下回る結果となりました。無解答率は、国語と同じように全国平均値より高い状況にありました。

生徒質問紙から見られる特徴として、『数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか』という設問に対し、肯定的な回答の割合は全国平均値を上回っています。引き続き、数学を学ぶことの楽しさや、学んだことを日常生活につなげられるような取組を継続していくことが必要だと考えます。

＜強み＞『データの活用』の領域で相対度数を求める問題の正答率は、全国平均正答率を上回っていました。これまでの授業のなかで、関連問題を繰り返し復習してきたことが成果としてみられたと思います。

＜弱み＞『数と式』や『図形』、『関数』の領域にかかわる問題の正答率は、全国平均正答率を下回っていました。例えば、素数を求める問題で、素数の意味を正しく理解できていないことや、図形の問題で問題文の意味を理解できず、正しく解答できない状況がありました。

《方策》

- 学習内容が「分かること」は教科の『好き』にもつながる。各学年において基礎の定着を図るなど指導の工夫・改善に努めていく。
- 数学的な表現が困難等の理由から、『解く』ことをあきらめてしまわないよう、学習の振り返りを丁寧にを行い成功体験を積み重ねていく。
- 自身で考えをまとめたり、仲間の考えを通して自身の考えを整理するなどして、数学的な思考・判断・表現力をつけ、記述することに慣れるよう指導していく。

理 科

平均正答率は全国平均正答率を下回る結果となりました。無解答率は、他の2教科と同じように全国平均値より高い状況にありました。

生徒質問紙から見られる特徴として、『理科の授業で学習した知識を普段の生活の中で活用できていますか』という設問に対し、肯定的な回答の割合は全国平均値を上回っています。引き続き、理科を学ぶことの楽しさや、学んだことを日常生活につなげられるような取組を継続していくことが必要だと考えます。

＜強み＞『エネルギー』の領域での問題の正答率は、全国平均正答率と同程度の状況でした。『選択式』『短答式』の問題においても、同じような状況がみられました。

＜弱み＞『地球』にかかわる問題の正答率が、他の分野に比べて低い状況にありました。基本的な知識の定着に弱さがみられます。授業で学んだ内容について、繰り返し問題に取り組むなどが必要です。

《方策》

- 各学年において基礎の定着を図るなど指導の工夫・改善に努めていく。（『考える』時間の確保）
- 知識の定着やその知識を適切に活用することができるよう、教科や家庭学習において繰り返し学習を継続実施していく。
- 分析や考察などを行うにあたり、自分の考えを文字や言葉で表現する機会（場面）を意図的に持つなど、相手に「適切に」「正確に」伝える活動を取り入れていく。

生徒への質問（抜粋）	肯定的(%)
将来の夢や目標を持っていますか	76.8 ↑
自分には、よいところがあると思いますか	88.0 ↑
人が困っているときは、進んで助けていますか	92.8 ↑
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	97.6 ↑
人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.2 ↓
友だち関係に満足していますか	92.0 ↑
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	86.4 ↑
学校の授業時間以外に、普段（月～金）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾やインターネット等を活用して学ぶ時間も含む） * 2時間以上と回答した割合	35.2 ↑
学校に行くのは楽しいと思いますか	86.4 ↑
読書は好きですか	60.0 ↓
朝食を毎日食べていますか	89.6 ↓
1・2年生の時に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	62.4 ↓
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	87.2 ↑
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	78.4 ↑
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさをいかして解決方法を決めていますか	84.0 ↓

上の表の数値は、一部の質問を除き、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」など『肯定的な回答』の割合の合計を表しています。『↑』は全国平均値を上回っていること、『↓』は下回っていることを表しています。

今回の生徒質問紙の結果からは、『自分にはよいところがある』、『人が困っているときは進んで助ける』などと回答した生徒の割合が、全国と比較し多いことが分かりました。

一方で、『読書が好き』『自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた』などの回答が全国平均値より低い状況でした。

学習内容の定着を図るため、授業時間以外の学習は大切な取り組みです。本校の状況は、35.2%と全国平均値よりもやや高いものの、割合として高い状況ではありません。学習用タブレット等を効果的に活用し、計画的継続的に取り組んでいきましょう。

この調査は、文部科学省が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析するとともに、各学校においても自校の児童生徒の状況を把握し、指導の改善に役立てるために実施するものです。調査結果を今後の授業改善等に活かしていきたいと考えています。